



The TKF TIMES

高崎経済大学附属高校新聞部 4月6日(水)発行 入学式号

TKF's Mysteries

あなたの知らない高経附 前編

経附生が青春の高校時代の大半を過ごすことになる高経附の校舎。ここには数十年前に建てられたが故の謎設計や、当時の遺産が多く残されている。今回はそんな「これ、なんのためにあるの」と誰もが思うような高経附の謎を説明しよう。

① 閉ざされた屋上

多くの人が「夢の高校生活に欠かせないもの」の一つとしてあげるのが「学校の屋上」である。ドラマや小説でもたびたび青春の舞台として扱われるこの場所は、本校ではどのような存在なのだろうか。

ご存じかもしれないが、屋上へ続く4階への階段は「立ち入り禁止」の立て札によって閉ざされている。残念ながら、高経附においては「恋人と一緒に屋上ランチ」なんていう行為は夢のまた夢のようだ。しかし、立ち入り禁止だ

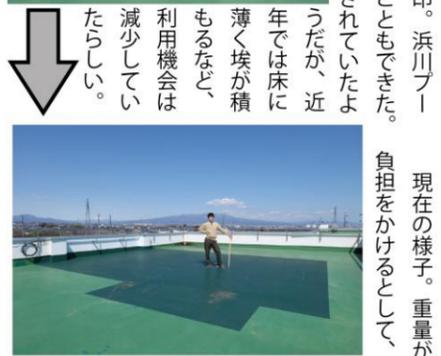


▲ ちょっとした球技ならできそう

天体観測施設の歴史



半球状の屋根が目印。浜川プール側からは目視することもできた。以前は合宿等で利用されていたようだが、近年では床に薄く埃が積もるなど、利用機会は減少しているらしい。



現在の様子。重量が校舎に負担をかけるとして、生徒の安全のために解体された。色が濃い部分が目立つ。跡地である。

② 恐怖のダイヤル式電話

廊下に設置されているダイヤル式電話に、皆さんはお気づきだろうか。各階の中央階段付近にあるこの電話だが、古めかしいその風貌から、かなり年季の入ったものであることが見て取れる。バロン前にも設置されているこれを見て、新聞部は思った。「これらの電話がもし現在も使用可能な

一部分だけ色が違うエリアがある。これは昨年まで設置されていた「天体観測施設」の跡地で、内部に巨大な天体望遠鏡を備えた本格的な施設だった。残念ながら、昨秋の耐震工事で撤去されてしまったが、そこで培われた生徒たちの夜空への知識は、理系オナーの活動に今もなお生きている。



▲ 人生で一度は回してみたい

ら、バロンへの電話予約ができるのでは?。そもそも何を予約するのかは謎だが、学校から特別に許可をいただいて検証を行った。内容は「2階廊下の電話から発信し、バロン

前の電話と通話する」というものである。宮田先生にご協力いただき、内線番号の一覧を入手して検証を開始した。結論から言うと、使用は可能だった。2階でダイヤルを回し終わると同時に、バロン前の電話のベルが不気味な音で鳴り響いたのである。ホラー映画の素材になりそうなレベルだ。しかし、通話時の声の伝わり方は良好で、問題なく会話することができた。つまり、番号さえわかればバロンに

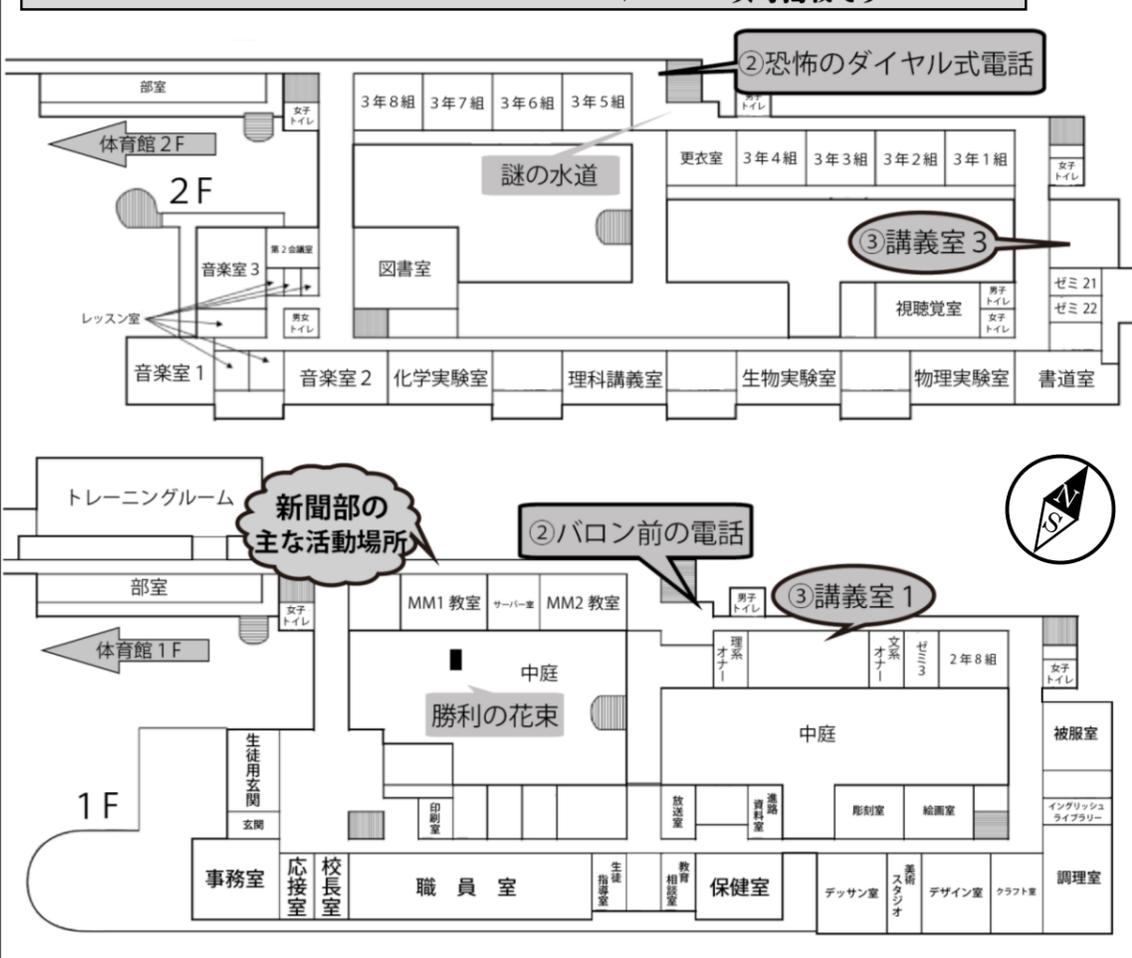
電話することも可能らしい。しかし、この検証は学校の許可の上で成り立っているもので、緊急時以外に実際に電話を使用することはご遠慮願いたい。また、ここで注意しておきたいのが「各階の電話に添えられている内線番号表」である。写真のように、一見すると他の階への発信方法のようにも見えろが、これは実は職員室の電話に通じる番号だ。1年と書いてある番号に発信すれば、1年生担当の先生方に最も近



▲ かけるな危険

校内地図と謎の分布

※ 枠線なしの吹き出しは次号掲載です



③ 経附生と秘密の部屋

「今回の授業は講義室4で行うので...」。「○委員は昼休みに講義室3に集合してください...」。学校生活で必ず聞くことになるこれらの台詞だが、誰も一度は心中で呟くのが「講義室〇ってどこだよ」である。多数存在する上に場所がわかりにくい、そんな幽霊のような不遇な存在「講義室」こそ、「TKF's Mysteries」にふさわしいはずだ。ここではそれらの場所を簡単に説明する。

まず「講義室1」だが、これはバロンと同じ並びにある教室だ。バロン側から数えて2つ目(裏面へ続く)